



部活動の地域移行

教育長 津野庄一郎

【写真】新潟県の休日部活動の地域移行の講義

関川村地域クラブ活動推進協議会（会長：小池稔）と関川村教育委員会（統括コーディネーター・教育指導員：坂爪淳）による「休日の部活動の地域移行関係者合同研修会」が、7月11日（木）午後6時半から、同村農村文化交流センター「の一む」で開催され、3名の講師・実践発表者をはじめ、村内スポーツ少年団の指導者、学校関係者、小中PTA代表者、教育課職員含め36名が集まりました。

新潟県の桑原文博様（新潟県教育庁保健体育課部活動改革担当）からは、部活動改革の意義や本県の現状と課題等をご講話いただきました。また、関川村スポーツ少年団の指導者として渡邊悠様（バスケットボール）からは、地域移行を見据えたスポーツクラブの指導の構えと取組について、関川中学校の國井郷史先生からは、前任校の村上東中学校サッカー部の地域や大学との協力連携について参考にすべき先行事例が示されました。その後、小グループで意見や情報交換を行い、実り多い研修会となりました。

翌日、私は関川中学校で放課後の部活動を参観しました。体育館では女子バレーボール部と男子バスケットボール部、2階ホールでは卓球部、3階音楽室では吹奏楽部、屋外コートでは女子テニス部の生徒が顧問の指導のもと練習に励んでいました。久しぶりに見る躍動する生徒の姿に心が躍りました。部活動は、言わずもがな目標に向かって努力を重ね、仲間と励まし合い、切磋琢磨することで、生徒には普段の授業や学校行事では身に付けることのできない、やる気、忍耐力、協調性、自己コントロール力といった「非認知の力」を身に付けることができます。まさにそれが学校における部活動の価値であり、意義です。

しかしながら、これまで部活動は、ほぼ学校の顧問の善意と熱意だけで完結していました。今や生徒数が減少し、部活動そのものの維持・継続が困難になってきていることや、教員だけでは限界があること等から、これからは休日部活動の受け皿として「地域クラブ」が加わることになります。関川村の生徒の成長にとって持続可能で望ましいスポーツや文化活動の環境が整えられるよう、みんなで知恵を絞っていきましょう。

休日部活動の地域クラブへの移行に際しては、今後、指導者の確保とその手続き（含む兼職兼業）、研修の必要性等の課題、会場や大会における生徒の移動手段の確保、地域クラブの指導者と保護者との連携・協力、保護者には指導者への謝金等の金銭的な負担、子どもの送迎を含めたサポートも必要になります。こうした課題を一つ一つ解決し、令和8年度からの休日部活動の地域クラブへの完全移行に向け、努力してまいります。引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。